

10. グランドデザインの進捗状況

グランドデザインの4つの目標 進行管理報告書(平成28年度)	
<p>グランドデザインの4つの目標とは「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」(平成26年3月策定、以後グランドデザイン)において、平成35(2023)年までに図書館のめざす姿を実現するために設定されたものです。</p> <p>図書館のめざす姿を実現するため、28のプランを優先順位の高いものからすすめることになっています。この優先順位の高いプランの実施状況を確認することで、グランドデザインの進捗状況の点検をすすめていきます。進行管理については以下のとおり行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0~4の目標のうち、複数のプランがあるものについては、図書館の使命および関連の事業計画や当該年度における図書館を取り巻く現状などに照らし合わせ、年度ごとに優先順位を決定します。決定には直接サービスに関わる分館の施設長等も関わります。 ・28のプランを関連する4つの目標(1~4)と目標実現を支える取り組み(0)ごとに分類します。 ・28のプランの優先順位の高い取り組みを抽出し、事業ごとの取り組みや課題、次年度に向けての予定を達成状況とともに表しています。 ・優先順位の高い取り組みがどの程度達成できているか確認することにより、図書館のめざす姿の実現に向けての進行管理とします。 	
達成度 ◎:十分達成できた ○:おおむね達成できた △:一部達成 -:未達成	
1. 学びによる市民と地域の自立を支えます。 該当プラン ㉓・㉔・㉕・㉖・㉗	
優先的な取組プランと事例	達成状況
<p>【優先的な取組プラン:㉕市民の社会参加、地域との関わりづくりの支援】</p> <p>【事例】</p> <p>27年度に引き続き、情報検索や本の装備を体験するなど、庄内図書館・野畑図書館等で「大人のための図書館のお仕事体験ツアー」を開催し、図書館についての理解を深める機会としました。さらに庄内図書館では「図書館サポーター講座」を開始しました。将来を担う中学生・高校生のボランティア活動も各館で受け入れました。</p>	<p>課題、平成29年度に向けての取り組み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民にむけた図書館の役割についての周知 ○市民協働の事業内容についての市民への周知 ○市民の社会参加に対するニーズの把握㉕ <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続したサポーター募集 ○多くの市民に参加してもらえるよう、参加者のニーズの把握および魅力的なメニュー作り㉕ <p>【平成28年度に向けての取り組み】</p> <p>引き続き「北摂アーカイブス」「しょうないRBK」の事務局として活動に取り組みます。</p> <p>「図書館サポーター」の本格実施に向け、引き続き「大人のための図書館のお仕事体験ツアー」「図書館サポーター講座」を並行して実施し、市民の参加の機会を増やします。㉕</p> <p>○</p> <p>引き続き「図書館のお仕事体験ツアー」を開催してサポーター希望者を募集し、サポーターとしての活動の機会を提供します。㉕</p>
<p>【優先的な取組プラン:㉗図書館サポーターへの参加機会の提供】</p> <p>【事例】</p> <p>29年2月20日に「豊中市立図書館・図書館サポーター活動実施要綱」を施行しました。これにともない庄内図書館と野畑図書館にて「図書館のお仕事体験ツアー」を開催し、庄内図書館では参加者の中からサポーターの登録希望者を募り、3月17日に第1回「図書館サポーター講座」をあわせて実施しました。</p>	<p>◎</p> <p>引き続き「図書館のお仕事体験ツアー」を開催してサポーター希望者を募集し、サポーターとしての活動の機会を提供します。㉕</p>
2. 市民の利便性を向上させあらゆる情報を提供します。該当プラン ㉑・㉒・㉓・㉔・㉕	
優先的な取組プランと事例	達成状況
<p>【優先的な取組プラン:㉑開館日数の拡充】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千里図書館では、10月より月曜開館を開始するとともに、5日間の資料点検中にセルフ予約棚を開放することで、部分的な開館につながりました。 ・資料点検期間については、ICT化により概ね1日から2日の期間短縮を行いました。 	<p>課題、平成29年度に向けての取り組み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千里図書館の開館日拡充後の効果検証。バックアップ体制の構築のための全館的な事業の見直しやさらなる効率化。金曜日に職員が半数体制となる千里図書館及び金曜定休の高川・蛍池図書館職員の全体会議や研修の機会保障。(現状は月末の金曜日に全体職員会議や研修を実施) ○岡町図書館の開館時間延長の可能性の検討。㉑ <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館向けデジタル化資料送信サービスの市民へのPR ○マイライブラリーなど既存のインターネットサービスの利用案内㉑ <p>【平成29年度に向けての取り組み】</p> <p>プラン㉑(職員の役割分担)で作成した職員の役割分担表をもとに事業見直しを行い、効率化をはかります。</p> <p>庄内幸町を除く全館でのセルフ機の導入から1年間、また千里図書館の月曜開館の1年間の効果検証を行います。</p> <p>月末休館日の曜日変更についての検討をおこないます。㉑</p> <p>○</p> <p>先進事例の研究や次期図書館システムに向けての検討をはじめます。㉑</p>
<p>【優先的な取組プラン:㉕ICTの活用】</p> <p>【事例】</p> <p>資料点検期間については、ICタグ導入など、ICT化の推進により概ね各館1日から2日の期間短縮を行いました。</p> <p>千里図書館では、28年9月より国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスに参加し、閲覧および複写のサービスを提供しています。また、国立国会図書館デジタルコレクションの閲覧、複写サービスも提供しています。</p>	<p>○</p> <p>先進事例の研究や次期図書館システムに向けての検討をはじめます。㉑</p>

3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します。 該当プラン ④・⑦・⑧・⑭・⑯・㉔	
優先的な取組プラン、事例	達成状況
<p>【優先的な取組プラン:④調査分析】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町丁別の人口と登録率および4年間のその増減等により、特にFR等に力を入れていくべき地域を検討し、3地域を選び出しました。それぞれの地域の調査分析により、その地域の人が使いやすと思われるサービスの紹介をポイントにするFRなどを検討しながらすすめています。 ・市民からより納得を得られる予約のあり方等について、他市の調査を行いました。 ・中核市における図書館のサービス内容およびコストについて情報収集、分析を行い、目指すべきコストの見直しを行いました。 	<p>課題、平成29年度に向けての取り組み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員による統計分析の手法の習得④ <p>【平成29年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民からより納得を得られる予約のあり方等についての他市の調査を分析し、本市のニーズに沿ったサービスを検討・実施します。 ・地域課題の調査分析をすすめ、高川図書館、東豊中図書館、服部図書館において多機能化の検討、実践に取り組みます。 ・(仮称)南部コラボセンター内の図書館機能について、図書館協議会の提言や市民の意見などをふまえ、より具体的に検討をすすめます。 <p>④</p>
4. 学校図書館の支援を通じて子どもたちの学びの基礎作りを支えます。 該当プラン ①	
優先的な取組プランと事例	達成状況
<p>【優先的な取組プラン:①学校図書館を支援する人材の配置】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用した授業へのサポート、新任司書研修、学校図書館の開館や移転の応援、点字資料の借受の配送応援等を実施しました。 ・指導体系表等を新たに追加した「学校図書館を活用した授業例とよなかスタンダード」を全校に配布しました。 ・全教職員を対象に「学校図書館活用研修」を新設し(年2回開催)、校内研修を5校で実施しました。 ・「ブックプラネット通信」(6号・7号・8号・9号)を発行しました。 ・知的探究合戦「めざせ! 図書館の達人」、子ども読書活動フォーラムを開催しました。 ・小中一貫学校図書館プロジェクトチームを立ち上げ、小中一貫校における学校図書館について検討を開始しました。 	<p>課題、平成29年度に向けての取り組み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育センター、学校教育課と連携した学校図書館教育に関する体系的な研修の検討 ○学校図書館を支援する人材として、学校図書館の実務経験がある担当者の配置① <p>【平成29年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館を活用した授業例とよなかスタンダード(概要版)」を作成し、小学校の全教職員に配布します。 ・教育センター、学校教育課と連携し、学校図書館教育に関する体系的な研修を検討します。司書教諭と司書が合同で参加できる研修を計画します。 ・27年度から集約を開始した「学校図書館を活用した授業実績(単元数)」を教育行政の推進にあたっての指標として位置づけ(29年教育行政方針)学校図書館の活用をすすめます。①
0. 1から4の目標実現を支えます。 該当プラン①・②・③・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑫・⑬・⑮・⑰・㉒・㉘	
優先的な取組プランと事例	達成状況
<p>【優先的な取組プラン:①最適な実施手法の確立】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入したセルフ貸出機等のさらなる活用、利用率向上をめざし、配置場所などの再検討を行いました。また高川図書館については多機能化に向けて一部リニューアルを実施し、連携事業の実施等、多様な活用に取り組んでいます。 	<p>課題、平成29年度に向けての取り組み</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コスト意識をもちながら、地域のニーズに合った図書館サービスの提供、特に服部・東豊中図書館における多機能化 ○事務事業の見直しの状況や今後の図書館のあり方について職員間における情報共有① <p>○事務事業見直しの中での役割分担表の活用。個々の現状の仕事の確認および組織における職域ごとの業務の洗い出し、他の職域の職員に向けての業務の切り出し</p> <p>○組織の合意形成や課題解決力を高める効率的・効果的な会議の持ち方</p> <p>○「豊中市人材育成基本方針」に基づく各職階での職員が果たすべき役割と必要な能力・資質についての認識⑤</p>
<p>【優先的な取組プラン:⑤職員の役割分担】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な雇用形態の職員が自身の業務を見直し、今後の円滑な図書館運営につなげるために雇用形態ごとの分担を「豊中市立図書館グランドデザインにおける役割分担表」にまとめ、職員間で共有しました。 	<p>○多様な雇用形態による運営管理の継続実施、貸出等一部業務のセルフ化による効果の最大化、および常勤職員の削減予定への対応</p> <p>○他部局・学校図書館から人事交流で配属された職員が、速やかに公共図書館について理解を深め、力を発揮できるような対応</p> <p>○中途退職者の補充がコスト管理の側面から実施できない場合への対応 ⑥</p>
<p>【優先的な取組プラン:⑥採用計画の作成】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務事業の見直しにおいて、図書館職員数および多様な雇用形態による役割分担や将来的な施設配置の変化予測を含め、継続して議論を行いました。 	<p>△</p> <p>○さまざまな雇用形態の新規職員について、相談や指導のしくみの充実</p> <p>○研修報告の共有と研修を活かした実践への取り組み</p> <p>○経験年数や配属に即した体系的な研修プログラムの検討⑧</p>
<p>【優先的な取組プラン:⑧体系的な研修の実施】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に必要な情報として、職員の業務内容を記載した人材育成カルテを作成しました。 ・文部科学省・国立社会教育研究所主催の図書館司書専門講座に1名が参加しました。 ・庄内図書館では児童虐待に関する研修を実施するなど、地域館独自の研修を実施しました。 ・豊中図書館を考える未来の会と共催した市民協働研修を行いました。 	<p>○中央図書館を視野に入れた図書館の施設配置のあり方</p> <p>○セルフ貸出機等、ICTを活用したサービスによる業務の効率化</p> <p>○服部図書館・東豊中図書館の多機能化の検討⑯</p> <p>○27年度に引き続きセルフ機導入の効果をふまえたフロアワークの充実⑳</p>

<p>【優先的取組プラン:㉔ 施設配置の最適化】 【事例】 事務事業の見直しの一環として、中央図書館を視野に入れて検討を始めることになりました。また図書館が身近にない地域の利便性向上のため、既存施設の再利用について提案しました。</p>	<p>【平成29年度に向けての取り組み】 服部および東豊中図書館の書架を一部縮小するとともに、多機能化に向けて検討をすすめます。またリニューアルした高川図書館のフリースペースの活用方法、担い手についても継続して検討し、地域課題の解決に役立つ事業を実施します。幸町図書館においては機能変更とともに庄内図書館との一体的運用に取り組みます。①</p>
<p>【優先的取組プラン:㉕ きめ細やかな接客】 【事例】 ・27年に行った障害のある方に対するより良い窓口対応の研修に続き「障害者差別解消法 実践編」を実施しました。障害福祉センターひまわり職員を講師に招き、視覚障害のある方の安全な手引き歩行についてレクチャーを受け、アイマスクを着用して誘導する側、される側を体験しました。(120人参加)また、野畑、東豊中、服部、庄内図書館では、昨年に引き続き職員研修「接遇振り返り研修」(事前研修と実地研修)として窓口対応や表示等について、外部講師からアドバイスを受け、サービスマナーの向上に努めました。(20人参加) ・岡町図書館貸出室のカウンターに相談登録窓口を設置しました。 ・聴覚に障害のある方との筆談のために全館に筆談用磁気ボードを設置しました。</p>	<p>・役割分担表を職員間で共有し、それを元にセルフ貸出機等の導入後の効果を検証し、各館の状況に応じた職員の役割を検討します。 ・「豊中市人材育成基本方針」での求められる職員の姿に対して、各職階で自身の日常的な職務行動を振り返り、個々の具体的な目標達成に向けての仕組みづくりに取り組みます。⑤</p> <p>他部局・学校図書館から配属された職員を対象とする図書館内部の業務研修、新たに図書館に勤務することになった職員を対象とするヒアリングや人材育成担当者の設定など、人材育成に係る工夫を引き続き実施します。セルフ機の効果を最大化し業務の効率化・負担軽減につなげます。⑥</p> <p>・長期的な人材育成を視野に入れ、体系的な研修の企画や実施に向け「人材育成カルテ」を活用します。 ・児童図書館員養成講座または図書館司書専門講座を職員が受講できるように取り組みます。 ・引き続き豊中市立図書館独自の研修プログラムを実施するとともに、ヒアリングや人材育成担当者の設定などの工夫を行います。④</p> <p>中央図書館を視野に入れた図書館の施設配置のあり方について検討を開始します。他自治体におけるコンビニエンスストアとの提携事例の研究や導入の際の課題の整理に取り組みます。また東豊中図書館、服部図書館においては多機能化の検討、実施をすすめます。②</p> <p>「障害者差別解消法 実践編」の結果をカウンターでの対応に活かします。 「接遇振り返り研修」を受け窓口対応のサービスマナー向上や館内表示の改善に努めます。②</p>

11. とよなかブックプラネット事業

とよなかブックプラネット事業では、学校・公共図書館間の人・物流・情報の連携により、学校図書館の「読書センター・学習情報センター・教員支援センター」機能の向上と、児童・生徒の自ら学ぶ力の育成をめざしてきた。平成28年度は、学校図書館を活用した授業の支援、啓発活動に取り組んだ。

学校図書館教育推進の実践的な研修として、「学校図書館活用研修」を教育センターや学校教育課と連携して新設した。また、「とよなかスタンダード*」を用いた校内研修や授業支援に取り組んだ。

児童・生徒が公共図書館での調べ学習を体験する「知的探究合戦『めざせ！図書館の達人』」は5年目となった。年々申し込みが増加し、中学生の参加も増えている。また、恐竜研究者の小林快次さんを招いて子ども読書活動フォーラムを開催した。

今後は「とよなかスタンダード」の活用を広めるとともに、学校図書館活用研修を定着させ、関係部局と連携してさらに学校図書館教育を推進する。

*とよなかスタンダード＝図書館教育（情報活用教育）を通して子どもたちにつけたい力を示した指導体系表と学校図書館を活用した授業例（年間計画）